4月 26日（日曜日）「ダビデ（17）再建のつまずき」

【新改訳 2017】

Ⅱサムエル記24•1ー25

「ダビデは、民を数えて後、良心のとがめを感じた。そこで‥‥・主に言った。『私は、このようなことをして、大きな罪を犯しました。主よ。今、あなたのしもべの咎を見のがしてください。私は‥‥・愚かなことをしてしまった。』」（10節）

アブシャロムと一派の反乱が鎮圧された後、ダビデ王はエルサレムに帰り、ダビデ体制の立て直しに努めました。

しかし、その時イスラエルとユダの人口を数えさせたことで、再び主の怒りに触れてしまいました。自らも良心の呵責を覚え、主に謝罪しました。それでも、ある程度のさばきを受けねばなりませんでした。理由はおそらく、神の御力よりも人、（民）の力を強く意識したからでしょう。

多くのことを考えさせられます。①ダビデ王は偉大な人物でしたが、罪人でした。

②神はダビデを選んで、彼の王国からメシヤ王国へつなげようとされました。それゆえ、繰り返し聖別されたのです。選ばれた者は、繰り返し聖別されるものです。

～祈り～

主よ。あなたは、用いられる者を徹底的に取り扱い、きよめられます。どうか、いつもみこころに沿うことを考え、実行することができるように導いてください。

【学びのために】

主に選ばれた人だから、その人の言動は何でも主のみこころに沿っているというわけではないことを教えられます。神の器と言われるカリスマ的な人たちの言動も、この点から吟味されるのは当然のことです。逆に、だれが話したことでも、みこころに沿うことは受け入れるべきです。